

【保全水準評価】 評価項目 *5段階評価の内容、確認資料は表示していません

設問項目			設問項目		簡易診断 (25項目)	基礎診断 (50項目)	総合診断 (130項目)
大項目	中項目	小項目	No	設問内容			
1. 保全の方針と中長期計画	1-1 保全の方針と課題	(1) 保全の方針	1	工場（事業所）方針に基づき、設備に関する明確な「年度保全方針」を設定していますか			○
			2	「年度保全方針」に基づき、具体的な課題が設定されていますか	○	○	○
			3	方針および課題に盛り込まれている事項を、組織の末端に至るまで周知徹底させるための具体的な方法はありますか			○
		(2) 課題抽出の方法	4	保全データを分析して、改善のための課題を抽出していますか			○
			5	現状の「保全水準評価」（仕組みの状況把握）を実施し、保全の仕組みとしての改善課題を抽出していますか			○
		(3) 課題解決のアクションプランの設定	6	抽出された課題を解決するために、実行責任者およびスケジュールが含まれているアクションプラン（行動計画）を作成していますか			○
	1-2 中長期計画		(1) 中長期保全計画の策定	7	中長期の保全計画を作成していますか (例) ・主要設備の検査整備計画 ・防錆防食・塗装断熱計画	○	○
		(2) 設備維持・更新投資計画の策定		8	重要度の高い老朽化設備を把握し、老朽化・陳腐化の程度を基に中長期の更新計画を策定していますか		○
			9	これらの設備の老朽化の度合い、または陳腐化の程度を把握するための総点検を実施していますか			○
			10	中長期の要員計画を策定していますか			○
		(4) 中長期保全予算の立案	11	中長期保全計画および老朽化更新計画を織り込んだ、中長期保全予算を立案していますか			○
			12	中長期保全予算は、技術的な保全方式と結びつけた区分け（保全費の性格別分類）によって編成されていますか		○	○
	1-3 年度保全方針と中長期計画のレビュー	(1) 年度保全方針と中長期計画のレビュー	13	年度保全方針および中長期計画の見直し時期や方法が明確になっており、確実に実行されていますか			○
			14	事業所のトップ層および部門間で、定期的に設備管理状況の報告および検討がなされていますか			○
2. 保全計画の策定	2-1 保全計画の策定	(1) 「保全計画」の対象設備（範囲の設定）	15	保全管理対象設備の中で、自部門で「保全計画」を策定する設備（保全計画対象）と、自部門では「保全計画」を立てない設備（保全計画対象外）の範囲・基準は明確ですか。 (例) 生産設備は保全計画対象範囲。一方、福利厚生設備は、管理責任を明確にしたうえアウトソーシングし「保全計画の対象外」とするなど	○	○	○
			16	保全計画対象範囲とその管理境界は、工場間、工場全設備（生産、非生産）および関係会社の設備も含めて明確に設定していますか		○	○
			17	保全計画対象範囲とその管理境界は、関係部門にも明示していますか			○
		(2) 保全の管理単位の設定	18	保全計画対象の全設備について、「保全の最小管理単位（保全の実態に合わせた管理単位）」が設定されていますか（どういう単位でその設備を保全するか）			○
			19	保全計画対象の全設備について、「保全の最小管理単位」で「機器リスト」として登録してありますか 「機器リスト」に以下項目などが記載されていますか ・機器番号・機器名称・設備の管理階層（プラント、系列、工程など） ・設備の機種分類（ポンプ、モーターなど）・メーカーおよび型番・機器主任様		○	○
			20	「機器リスト」は定期的に見直されていますか			○
		(3) 法定対象設備の把握	21	保全計画対象の全設備について、関連する「法定対象設備リスト」を以下の内容で整備していますか ・適用法規名・検査区分（自主、官庁）・検査項目 ・検査実施者（運転、保全・記録保管責任（運転、保全、安環） ・検査報告ルート		○	○
			22	法規類の新設および改廃など、最近の動向を把握する仕組みがあり、「法定対象設備リスト」が見直されていますか		○	○
		(4) 設備の重要度設定	23	設備の重要度を設定するための基準があり、すべての保全計画対象設備について、基準に基づいて設備重要度を設定していますか	○	○	○
			24	設備の重要度は、関係先の共通認識として確立され、実際の具体的な保全に生かされていますか。 また、設備重要度は、定期的に見直されていますか		○	○
(5) 保全方式の設定基準	25	「保全方式の設定標準」の基本となる、①修理・整備方式（TBM、CBM、BDMなど）、②検査方式（運転中の検査として定期診断・オンライン診断・運転による点検および停止時の検査など）の項目に対して、定義が明確になっていますか	○	○	○		
	26	標準対象機種ごとに、設備重要度による保全方式の設定を定めた「保全方式の設定標準」がありますか *標準対象機種：回転機械、静止機械、配管、電機機器、計装機器など			○		

【保全水準評価】 評価項目 *5段階評価の内容、確認資料は表示していません

設問項目			設問項目		簡易診断 (25項目)	基礎診断 (50項目)	総合診断 (130項目)		
大項目	中項目	小項目	No	設問内容					
		(6) 機器単位ごとの設備管理基準の設定	27	保全計画対象の全設備について、管理単位の機器ごとに(例えばNo1 ポンプなどの単位)で「機器単位ごとの設備管理基準」(「機器別管理基準」)が作成されていますか *機器を構成する「部位(部品)または補機」ごとに「部位ごとの保全方式」「定期検査・診断の内容と周期」「定期修理・整備の内容と周期」「日常点検の内容と周期」が記載され、機器ごとの保全内容が一覧できるものが「機器別管理基準」です			○		
				28	重要度の高い設備に対しては、機器ごとの保全内容の「技術的根拠」が明確で、文書化されていますか 基準の「技術的根拠」として、検査・診断や整備に使用される検査成績書やチェックリストが準備されていますか	○	○	○	
					29	定期検査・定期整備および故障修理などの保全の結果が反映され、常に「機器別管理基準」の見直し・修正される仕組みができており確実に実行されていますか			○
			(7) 機器単位ごとの設備管理基準の活用	30	「機器別管理基準」に基づいて、保全作業の「保全カレンダー」が作成されていますか			○	○
					31	定期検査・定期整備および故障修理などの保全の結果(保全履歴)が記録され、活用されていますか	○	○	○
						32	年次の保全計画を立案していますか	○	○
		2-2 年次・月次保全計画の作成	(1) 年次・月次保全計画の作成	33	年次保全計画は保全実績、生産計画、設備工事計画等を加味していますか また、関係部門と調整して、都度、修正または反映されていますか			○	
					34	月次保全計画を立案し、突発作業や生産計画変更などを加味しながら、計画作業が確実に実施できるようにしていますか			○
						35	設備故障の生産、品質、安全等に対する影響度、および調達状況も考慮し、常備する予備品の計画を作成していますか	○	○
		2-3 予備品管理計画の作成	(1) 予備品管理計画の作成	36	予備品の日常在庫管理の基準が設定され、適正在庫が管理される仕組みとなっていますか			○	
					2-4 年次保全予算の策定	(1) 年次保全予算の策定	37	「保全予算」は、技術的な保全方式と結びつけた区分け(保全費の性格別分類)によって編成されていますか	
		38	予算交渉段階で変更し、計画に盛り込めなかった項目(残留したリスク)を明記していますか					○	○
		3. 保全の実行計画・管理	3-1 保全の役割分担	(1) 保全の役割分担	39	「保全の役割分担」に対する方針は明確ですか		○	○
						40	「役割分担」を設定するために、保全業務の機能分析(業務分類ごとに必要とされる能力の分析)をしていますか		
41	「保全業務の機能分析」に従い、運転部門、(専門)保全部門、設計部門などの役割分担を設定していますか								○
	42						「保全業務の機能分析」に従い、アウトソーシング(外部技術)活用の基本方針を明確にしていますか		
3-2 保全部門の業務	(1) 保全担当間の分担		43	保全業務分担は、機械、電気、計装などの担当別に明確に分担が決められていますか			○		
				44	保全作業全般のPDCAが回る業務の進め方(「保全業務のジョブフロー」)が作成されていますか		○	○	
					45	保全業務についての作業標準、マニュアル(手順書)は整備されていますか		○	○
					46	保全業務についての作業標準、マニュアル(手順書)は、定期的に見直し・修正されていますか			○
3-3 運転部門の業務	(1) 自主保全		47	運転部門が行う自主保全への支援内容および体制が明確になっていますか 支援内容は保全部門の専門技術が活かされる内容になっていますか			○		
				48	自主保全の範囲、日常保全、異常処置などを明確にしていますか(運転部門が自ら行う保全業務の内容)		○	○	
					49	日常保全、異常処理などについて保全部門との役割分担が明文化されており、日常的な協働体制が確立されていますか			○
					50	自主保全業務の作業標準、マニュアル(手順書)が整備され、定期的に見直し・修正されていますか	○	○	○
3-4 設備設計部門の業務	(1) 初期流動管理		51	生産保全業務の中で、設備設計部門が果たす役割が明確になっていますか		○	○		
				52	設備計画実施の各段階で、デザインレビューが行われる仕組みとなっていますか	○	○	○	
		53			設備設計の不具合箇所の早期発見やその修正を確実にを行うために、着工前に図面、検査・検収要領書等に対してMP情報が織り込まれているかをチェックしていますか		○	○	
		54			設計段階で想定できる保全方式の設定や保全資料の整備が、試運転前に完了していますか	○	○	○	

【保全水準評価】 評価項目 *5段階評価の内容、確認資料は表示していません

設問項目			設問項目		簡易診断 (25項目)	基礎診断 (50項目)	総合診断 (130項目)
大項目	中項目	小項目	No	設問内容			
3-5	アウトソーシングの活用	(1) アウトソーシング活用の業務	55	アウトソーシング活用の基本方針に沿った「業務遂行フロー」が作成されていますか		○	○
			56	アウトソーシングの「業務遂行フロー」に基づき、確実な実行を管理していますか			○
			57	アウトソーサー（受注者側）の自主計画に基づく自主管理、自主検査が実行されていますか			○
			58	発注業務内容、遂行ルール、責任範囲、保険などを明確に定めた契約書が策定され、相互に納得できる契約書が交わされていますか			○
	3-6 日常保全の作業管理	(1) 作業依頼・計画確認	59	日常保全（工事を含む）の作業の流れを示す「日常保全のジョブフロー」が作成されていますか 日常保全計画に基づき、安全で確実な日常保全を実行する仕組みが確立されていますか			○
			60	「運転部門」と「保全部門」の間で実施する保全工事・作業の受渡し（依頼・計画・完了）が、「作業（依頼・計画）確認票」により確実になされていますか 「作業（依頼・計画）確認票」に以下の内容が含まれていますか ・運転部門および保全部門の承認・工程、件名、作業納期・具体的な依頼内容（なにを、どこが、どのように、など） ・規制条件（法的規制、生産上、品質上、作業範囲など） ・具体的な作業計画の連絡・協議・決定事項・完了報告 ・保全情報システムへの記入事項	○	○	○
			61	保全工事・作業の依頼内容に対して、「変更管理を適用すべきかどうか」が、「作業（依頼・計画）確認票」でチェックできる仕組みになっていますか		○	○
			62	運転部門と保全部門の間で実施する保全工事・作業に関する「作業環境・安全確認票」（帳票）があり、適切なリスクアセスメントが行われていますか 「作業環境・安全確認票」に以下の内容が含まれていますか ・作業立ち会い（立ち会い時期、立ち会い者） ・作業着工（着手）前の安全確認事項 ・作業終了（完了）時の安全確認事項 ・安全対策上の特別指示、専用作業手続き、保護具着用条件などの特記事項 ・火気使用などの特定作業の安全を確保する仕組み	○	○	○
		63	「作業（依頼・計画）確認票」と「作業環境・安全確認票」がペアとなって運用されることで、安全作業を確保する仕組みとなっていますか			○	
		64	工事着工前に工事請負業者への安全教育が実施されていますか 作業着工前に「安全な作業環境」の提供が確保されていますか（発注者側の提供責任）			○	
		65	工事着工前に作業内容や安全対策が自主的に確認される仕組みができていますか 工事着工前に現場での危険予知（KY）の仕組みがあり機能していますか			○	
		66	施工中に設備の不具合、工物品質不良、検査不良などが発見された場合は直ちに発注者に報告し、処置を協議するルールが確立されていますか			○	
	3-7 検査・整備工事の施工管理	(1) 検査・整備工事の施工管理	67	検査・整備工事の作業の流れを示す「検査・整備工事のジョブフロー」はありますか			○
			68	検査・整備工事の施工管理が安全で確実に行われる仕組みとして、「検査・整備工事計画書」が次の視点で立てられていますか ・早期に計画され、十分な検討が行われているか ・責任範囲・役割分担を明確にした工事組織になっているか ・工期および安全の確保が十分可能な計画になっているか			○
			69	検査・整備工事の検収検査におけるチェックポイントを記した「指示検収票（検収検査票）」が作成されていますか			○
			70	「指示検収票」は、以下のように運営されていますか ・発注仕様書に添付し、竣工検査時に試験成績書として提出を求めている ・設備機器ごとに「指示検収票」を作成している ・整備をする作業者は、一定のレベルの技能をもった者を対象として作成されている ・「指示検収票」の作成は、施工者による作成を推奨している			○
4. 保全の実施と改善	4-1 検査・整備計画と実施	(1) 検査・整備計画の作成	71	保全計画や保全実績に基づいた、年次・月次での「検査・整備計画書」が作成されていますか			○
			72	検査・整備計画を確実に実行するために必要な技術基準が作成されていますか			○
		(2) 検査・整備データ活用	73	「検査・整備計画書」は、実績評価（検査・整備結果、更新実施）および新技術の導入などに基づき、定期的に見直し・修正をしていますか			○
			74	検査・整備対象のすべての設備に対して、定量的データをデータベース化していますか また、定量データを活用して、判定基準を明確にした信頼性の高い傾向管理を行っていますか			○
		(3) 潤滑管理	75	給油・更油が必要な対象設備を明確にして、そのすべてについて「給油・更油基準」を作成していますか また、「給油・更油基準」は、保全実績に基づき、定期的に見直し、修正を行っていますか		○	○
			76	給油・更油作業に関する運転部門と保全部門の作業分担を明確にしていますか 対象設備のすべてについて、「給油・更油計画（カレンダー）」を作成し、確実な実施をするようになっていますか		○	○
		(4) 防錆防食管理	77	防錆防食・塗装断熱についての中期保全計画と年次保全計画を作成し、確実に実施していますか			○
			78	設備の腐食・劣化状況を定期的に検査し、保全計画に反映していますか			○

【保全水準評価】 評価項目 *5段階評価の内容、確認資料は表示していません

設問項目			設問項目		簡易診断 (25項目)	基礎診断 (50項目)	総合診断 (130項目)		
大項目	中項目	小項目	No	設問内容					
4-2 運転員による日常点検	(1) 運転員による日常点検	79	79	運転員による「日常管理」項目は、運転部門と保全部門が協議して作成され、定められた役割分担により実行されていますか	○	○	○		
			80	運転部門は、保全部門と協議して、自ら「日常点検基準書」を作成していますか	○	○	○		
			81	「日常点検基準書」は、点検実績に基づき、運転部門と保全部門の両方で定期的に見直し、修正していますか			○		
	4-3 故障削減活動の推進	(1) 故障削減活動の推進	82	82	日常保全を行っていく中で、故障を削減する仕組みが確立されていますかその仕組みは故障削減活動が経営的に評価されるようになっていますか	○	○	○	
				83	運転部門の点検で発見されたトラブルや異常情報は、毎日のミーティングで常に情報交換していますか			○	
				84	故障の全件名に対して故障原因分析を行い、再発防止につとめていますか		○	○	
				85	故障原因の分析結果を、類似設備のすべてに対して適用し対策していますか事業所内外の故障事例を活用して、類似設備の再発防止につとめていますか	○	○	○	
				86	故障原因分析の結果、従来の保全方式の改定を行う場合、「機器別管理基準」を適時に変更していますか		○	○	
				(2) 故障分析システム	87	故障分析のための方法や様式を設定していますか		○	○
					88	故障分析および対策は、職責者（管理者）の技術レベルで対策していますか	○	○	○
	4-4 改善活動の仕組み	(1) 改善活動の仕組み	89	89	「日常保全を行っていく中で、適切な改善活動が推進される」仕組みを目指していますか HJK活動、改善提案などの具体的な改善活動をしていますか 「設備改善活動テーマ管理表」などを作成して、活動していますか		○	○	
				90	運転部門、保全部門の両者で定期的に保全情報を分析し、その結果に基づき取り組むべき課題を明確にし、問題解決に取り組んでいますか	○	○	○	
				91	改善活動の「目標設定」が、以下のようになされていますか ・調査結果に基づき、改善活動による経済的効果を算出している ・この効果を可能にする対象設備、活動テーマ、数値目標を設定している ・活動の目的によって数値目標および攻めるポイントが異なることに留意している ・挑戦的な目標を設定している			○	
		(2) 改善活動の実施	92	改善活動を推進する仕組みには、以下の内容が含まれていますか ・活動推進体制づくり（推進体制、活動目標、推進マスタープラン等） ・基本条件の整備の重視 ・設備改善の基本的な考え方（設備異常現象の解析と確定による改善対策検討、提案・実施）			○		
93			改善の結果が、保全計画・保全実行計画（日常点検基準等の見直し、定期検査・整備計画の見直し）反映されていますか。また、保全情報管理システムへ登録されていますか			○			
5、保全の評価と基盤整備	5-1 保全評価	(1) 保全の評価指標	94	94	保全を評価する指標を明確にしていますか 保全の評価指標として、以下が設定されていますか ・資源系指標（保全費推移、保全作業効率など、資源の効率的な運用がなされているかをみる指標） ・設備系指標（設備信頼性や安全性指標など、保全の経過をみるため、設備稼働状況を示す指標） ・成果系指標（生産性改善、品質指標など保全活動の結果としての指標）	○	○	○	
				95	保全担当部署は、保全方針を達成するための保全に関するデータを総合的に分析・評価していますか			○	
				(2) 保全の「生産性向上」に関する活動の評価	96	故障削減活動が計画的に実行されて成果を挙げていますか		○	○
					97	保全部門と運転部門と一体となった生産性向上のための改善活動について、その指標を設定し成果を挙げていますか			○
					98	「保全費は最適化の方向」に運用され、適切なコスト削減が行われていますか			○
		(3) 保全の「人材管理」に関わる活動の評価	99	人材の確保、育成は計画的に実行されていますか			○		
			100	作業総件数や時間外勤務、呼出等の削減のための業務改善が実行されていますか			○		
		(4) 保全の「安全管理等」に関わる活動の評価	101	労働災害防止に関する活動が日常的に行われ成果を挙げていますか			○		
			102	産業災害・環境災害防止に関する活動が計画的に行われて成果を挙げていますか			○		
		(5) 経営による保全評価	103	経営方針に基づく保全方針や目標が達成していますか			○		
104	保全活動の状況を経営が評価する仕組みになっていますか 経営による保全評価を受けて、次期保全戦略への反映を行っていますか				○				

【保全水準評価】 評価項目 *5段階評価の内容、確認資料は表示していません

設問項目			設問項目		簡易診断 (25項目)	基礎診断 (50項目)	総合診断 (130項目)	
大項目	中項目	小項目	No	設問内容				
5	5-2 保全資料の整備	(1) 保全資料の整備	105	保全業務を遂行するに当たって、必要な資料が明確になっていますか	○	○	○	
			106	必要な資料が完備され、誰でもすぐに取り出せるようになっていますか			○	
			107	必要な資料が個人持ちでなく、共有化されていますか			○	
	5-3 保全技術の標準化	(1) 保全技術の標準化	108	社内基準・標準類がISOなどに準拠した設備管理基準として登録されていますか 基準・標準類を日常の仕事で活かすように徹底されていますか			○	
			109	保全の実績や社内外情報から、基準・標準類の変更が必要と判断されたとき、改善提案する仕組みがありますか			○	
			110	社内基準・標準類の技術的な検証を行う「専門技術検討部会」が設置されていますか（全社レベルで行っている場合は、事業所から参加していますか）			○	
	5-4 保全情報管理システム	(1) 保全情報管理システム	111	計画保全を推進するツールとして保全情報管理システムを導入していますか 情報管理システムを日常的に活用し成果を挙げていますか または、導入を前提に仕事の仕組み改善に取り組んでいますか			○	
			112	保全共通用語が、保全業務に関わる全ての関係者間で共通的に定義されていますか			○	
	5-5 保全費の最適運用システム	(1) 保全費の最適運用システム	113	保全予算は経営による適切な枠設定と技術部門による計画主導予算が適正に議論され決定されていますか 予算化されなかった保全計画についてその残留リスクが経営と技術部門の間で共有化されていますか			○	
			114	最適保全費確保のための視点を記したチェックリストにより予算作成が行われていますか			○	
	5-6 保全評価の共有化	(1) 保全評価の共有化	115	保全実績・保全評価を経営や事業所他部門などへ報告し、レビューを受ける仕組みがありますか（保全月報・年報など）	○	○	○	
			116	保全実績・保全評価を事業所内部に周知徹底する仕組みができていますか（活動板など）			○	
	6. 保全の人育成	6-1 保全の教育・訓練に関する基本方針	(1) 保全の教育・訓練に関する基本方針	117	生産保全に関わる人財の教育・訓練に関する基本方針が明文化されていますか			○
				118	教育・訓練の対象となる生産保全要員のあるべき姿について、職種、階層別に中長期的視野に立って把握され、明確になっていますか			○
		6-2 保全員の教育・訓練計画	(1) 保全員の能力診断	119	専門的な保全員が業務を遂行するために必要な機能（能力）と技術・技能の整理がなされていますか ・保全計画に必要な機能と必要な技術（管理技術を含む）・技能：計画、定期検査・定期整備、トラブル対応、改善検討 ・保全実施管理に必要な機能と必要な技術：日常保全管理、予算管理、予備品管理、工事管理、安全管理など	○	○	○
120				上記項目に従って、保全員に必要な機能（能力）と技術・技能のレベルを診断していますか			○	
(2) 教育ガイドラインの作成				121	専門保全員として「職務期待」（職務プロファイル）レベルが作成されていますか ・階層：社内における職階等 ・経験年数：入社～15年程度を対象としている ・求める像（要旨） ・業務遂行レベル：概ねどのような知識を習得し、どのような業務ができるか（能力が身についているか） ・職務期待レベル：具体的な業務に対して、どのような能力が身についているか			○
				122	階層別の具体的な教育内容と「教育によって到達すべきレベル」が明確になっていますか			○
				123	具体的な階層別の年次教育計画（「教育ガイドライン」）がありますか 「教育ガイドライン」は、以下のように定められていますか ・年次単位で習得科目が設定されている ・習得科目が専門知識・技術別に、どのテキスト・教育方法で学ぶかが明示されている ・習得レベルの目安（知ればよい、受講し理解する、熟知するなど）が示されている ・習得すべき資格（国家資格や公的機関等）と取得年次目標が設定されている			○
124				保全員の「個人別育成状況表」があり、本人と上司が共有していますか また、「個人別育成状況表」が人事評価と連動する仕組みがありますか	○	○	○	
6-3 運転員の教育・訓練計画		(1) 運転員の能力診断	125	運転員に必要な機能（能力）と技術・技能のレベルが設定されており、定期的に診断していますか			○	
			(2) 教育ガイドラインの作成	126	運転員として設備管理に必要な具体的な教育内容が明確になっていますか			○
				(3) 教育実施計画	127	運転員の設備管理に関する年次教育計画がありますか		
128		運転員の「個人別育成状況表」があり、本人と上司が共有していますか また、「個人別育成状況表」が人事評価と連動する仕組みがありますか				○		
6-4 保全に関する管理者教育	(1) 保全に関する管理者教育	129	生産保全に関する管理者に必要な機能（能力）が整理されていますか また、教育実施内容が、個々の専門的知識ではなく生産現場におけるマネジメント教育を主体として策定されていますか			○		
6-5 保全に関する技術情報の共有化	(1) 保全に関する技術情報の共有化	130	社内情報の共有化や事故情報の横展開ができる仕組みができていますか 現場に最適な最新保全技術に関する情報が常に入手できる仕組みができ、適用が検討され導入されていますか			○		